

音素とは … (単語の意味を作り出す最少の音の単位)

hat と hut の hot 意味が異なるのは母音の音が異なるから

さくら の音素は? ⇒s/a/k/u/r/a 3つの母音と3つの子音、合わせて6つの音素で出来ている

cherry blossoms の音素は? ⇒ch/e/rr/y/b/l/o/ss/o/m/s 4つの母音と7つの子音、合わせて11個の音素で出来ている

※rr や ss は Double Letters といい、2つの文字になっているけれど、発音するのは1回。英単語では同じ音が2回続いた場合、1回しか発音しない。

英語の音素は日本語にないものがたくさんあるので、発音の勉強をするときには、まず音素を知る必要があります。

音素という概念自体、音声学等を勉強しないとわからないものです。ネイティブスピーカーだから知っているというものではないので、英語のネイティブスピーカーであっても、フォニックス指導の際に音素で言えていないこともあります。世の中のフォニックス教材も同様に、音素で発音していないものを多く見かけます。

ブレンディングとは … (音素を組み合わせて単語にして発音すること)

s ス a ア t ト ⇒ sat サート ※実際はカタカナでは絶対に書けない音です。

音素を正しく知らないと、ブレンディングした際におかしな音になってしまうことがあります。

d a d ダダ h i p ハイップ t i p トウイップ p i n パイン

発音記号について…辞書によって細かい定義が異なるため、ここで紹介したものが正解というわけではありません。IPA(国際音声学会)が制定したものを元に、複雑な部分は簡単にまとめたりしています。このマニュアルではアメリカ英語のみ表記しています。イギリス英語の発音記号については講座での話を参考にしてください。

母音(短母音)

長母音との差を出すために、とにかく短く言うことを意識させる。特にブレンディングする際に、日本語の読み合わせをする感覚で間延びした読み方にならないように気を付ける。

悪い例) p プ e エ n ン pen ペーン

文字 発音記号	同音異綴	発音のポイント
a [æ]		舌の先を下の前歯の裏につける、鏡で見たときに舌がしっかり見えるくらい口は縦に大きくあける。短母音 u に対して明るいア。
e [e]		カタカナのエを短く、息を吐きながら言うイメージ。エーと伸ばし過ぎない。エッ!とブチ切りにもしない。
i [I]		eと同じ口の形、舌の位置で、短く息を吐きながらイと言う。カタカナのイより脱力している。口を横に開きすぎてイー (ee) にならないように気を付ける。ee と比較して短く言う。
o [ɑ]		指が縦に3本入るくらい口を大きく縦にあけて、短くオという。のどをカパッと開いて、口の中に音を響かせ、頭のとっぺんから音が抜けていくイメージ。明け方のカラスとかターザンとかに喩えるとわかってくれる大人もいます。 音の質感を体感するために縦に3本の指が入るくらい口をあけると指導しますが、実際に音が出せるようになったらそこまで口をあける必要はありません。油断すると口をあけないでカタカナのオになるので、と

		<p>にかくしっかり開ける!短く言う!を強調してください。</p>
<p>u [ʌ]</p>	<p>ou…<u>touch</u></p>	<p>口を出来るだけ開けずに短く鋭くア。短母音 a と比べて暗いア。a と o はしっかりと口を開けるのに対し、u は出来るだけあけないことで差を明確にする。日本人にとって音だけで a と o と u の差を判断するのは難しいので、音に慣れるまでは口の形をみれば差が分かるよ、口の形で差を出そうとアドバイスするとよい。</p>
<p>oo [u]</p>	<p>u…<u>pull</u> ou…<u>could</u></p>	<p>カタカナ英語で「ウ」となっている場合が多い。ブック (book)、ルック (look) など。口を丸めて、音は喉の奥の方で響く。</p> <p>子音のwの息を吐ききった口の形のまま、ウという感じ。ただし日本人の場合はウと思って発音するとはっきりウと発音してしまうので、意識としてはオに寄せた方が近い音を出しやすい。</p> <p>カタカナのウのつもりで言うと、どんなに短く発音しても[u:]に聞こえてしまうため、意識的にオに寄せて発音する。full と fool の違いで説明すると印象に残りやすい。</p>

長母音・二重母音

母音が2つくっついて1つの音になっている二重母音は、音がふたつにわかれたり口の形が極端に2つの形になったりしないように気を付ける。ここで紹介する5つの長母音・二重母音は MagicE を学習する際に上記短母音と対になっているので、セットで覚えるとよい。

文字 発音記号	同音異綴	発音のポイント
ai [eɪ]	a-e...c <u>ake</u> ay...d <u>ay</u> ei... <u>eight</u>	e の口の形のまま i まで言うつもりで。2つの母音で一つの音であることを意識しながら発音する。エ・イと2つの音、2つの口の形にならないように気を付ける。
ee [i:]	e-e...P <u>ete</u> ea...s <u>ea</u> ey...k <u>ey</u> ie...bel <u>ieve</u> eo...p <u>eo</u> ple	口を横に開いてイー。i が e の口の形で少し脱力するのに対し ee は口角に力を入れて真横に口を開く。カタカナのイーッ!よりは脱力し、イイという音階を意識するときれいに聞こえる。
ie [aɪ]	i-e...k <u>ite</u> y...s <u>ky</u> igh...h <u>igh</u>	カタカナで書くならばアイという感じの音。アの口のままいまで言う感じで。明確にアイと2つの音にならないように気を付ける。
oa [oʊ]	o-e...n <u>ose</u> ow...s <u>now</u>	カタカナで書くならばオウという感じの音。この音が入っている英単語を日本語にした場合「ー」で表現されるため、オウではなくオーと言ってしまうがち。(goat はカタカナでゴートになる。実際はゴウトに近い。)カタカナ英語にならないために、この音に関しては極端にオウと練習してもよい。
ue [ju:]	u-e...c <u>ute</u> ew...f <u>ew</u>	カタカナで書くならばイユーという感じの音。イは明確に出さずに ee の口の形で力を入れた状態からユーに持っていく。日本語のユーは最

		初から口が丸くなっている人が多いので、eeの口の形からユーにする練習をするとよい。
ou [aʊ]	ow... <u>cow</u>	ア・ウと二つの音にならないように気を付ける。あえてカタカナで書くならアウ。
oo [u:]	ue... <u>blue</u> , ui... <u>fruit</u> u_e... <u>rule</u>	カタカナの「ウー」は口先で音が出るが、この音は口の奥、喉に近いところで響かせる。
oi [ɔɪ]	oy... <u>boy</u>	オ・イと二つの音にならないように気を付ける。あえてカタカナで書くならオイ。
au [ɔ:]	al... <u>ball</u> aw... <u>law</u>	カタカナのオに比べて唇と口まわりの筋肉に力が入っていない状態（ポカンと口をあけた感じ）でオー。指が縦に2本入るくらいポカンと開けた状態で、オーとただ伸ばす音。口があくことで響きとしてはオとアの間のような音になる。 oaをあえてカタカナで書くならオウ。auはオー。日本語では差が出ない音なので、明確に区別する必要がある。 例) soとsaw、lowとlawなど
er [ə]	ir... <u>bird</u> ur... <u>turn</u> ear... <u>heard</u> wor... <u>work</u>	短母音のuにrがついた音。口をあまり開けずに、暗いアを言ってから舌を引いてrの音につなげる。
ar [aə]		指2本縦に入るくらい口をしっかりあけて、アを言ってから舌を引いてrの音につなげる。
or	ore... <u>more</u>	口まわりに力を入れないオの音から、舌を引いてrの音につなげる。オ

[ɔə]	w <u>ar</u> …w <u>ar</u> m	アという音で覚えている人が多いので、オアではないことを強調して伝える。
ure [ʊə] [juə]	our…t <u>our</u> Poor…p <u>oor</u>	口まわりに力を入れないウ(短母音の oo)の音から、舌をひいてrの音につなげる。 ureと書いて[juə]とyの音が入る単語も多いので、yがある音とない音の比較をするとよい。 tourと pure
air [eə]	ear…b <u>ear</u> are…h <u>are</u>	短母音 e の音から、舌を引いてrの音につなげる。
ear [ɪə]	eer…b <u>eer</u> ere…h <u>ere</u>	短母音 i の音から、舌を引いてrの音につなげる。

子音

文字 発音記号	同音異綴	発音のポイント
t [t]		口はイの形。舌先を上の前歯の少し後ろにつけた状態から勢いよく離し息を出す。舌の先が歯にくっついているとtではなくtsの音になるので注意。tsに聞こえる生徒に対しては、舌を少し後ろに移動させて、と いと改善することが多い。力が入りすぎていてもtsに聞こえる。日本語だとトウと書かれることが多いので口が丸くなっている人が少なくない。トウというとブレンディングする際にwの音が入ってくるので、そういう生徒には「口の形はイ」を強調する。
d [d]		tの有声音なので、tと口の形・舌の位置・息の吐き方は同じ。口がまるくなってドウになったり、口が開きすぎてダになったりすることが多いので、口の形はイになるように気を付ける。
s [s]	c (Soft C) …c の後ろに i, e, y が来た場合は [s]の音になる city	口はイの形。歯の間隙から息を吐く音を聞かせるとほとんどの人はキレイな音を出せる。ブレンディングになった際に、カタカナのスにひっぱられて口の形が丸くなることがある。丸い口のままブレンディングするとwの音が入るので、その場合には「口の形はイ」を強調する。
z [z]	s…複数形のs や三単現のsで 直前が有声音	sの有声音なので、sと口の形・舌の位置・息の吐き方は同じ。かなり息を吐かないとジリジリした音にならないので、3秒間同じ強さでジリジリ出来るように練習をする。口が丸まっているとズーとなり、息が足り

	<p>の場合[z]の音になる</p> <p>dog<u>s</u></p>	<p>ないと最後はウーの音のみになりがちなので、どこまで伸ばしてもジリジリを維持できるように練習する。腹式呼吸が大事。</p>
<p>c</p> <p>[c]</p>	<p>k…<u>k</u>angaroo</p> <p>ck…<u>pic</u>k</p> <p>ch…<u>s</u>chool</p>	<p>口はイの形。のどぼとけのあたりを動かさず感じて。某アニメのキャラクターの笑い方…という、大人はすぐに理解してくれます。比較的出しやすい音ですが、口が丸くなったり、母音が入って「ク」といってしまう生徒もいるので、その場合はのどに手を当てて、無声音であることをしっかり確認する。</p>
<p>g</p> <p>[g]</p>		<p>cの有声音。cはきちんと発音できる人が多いので、まずはcを発音し、その際にのどの動く位置や動きを確認する。</p> <p>gはcと同じ場所が動く。日本語の「グ」の音に比べるとだいぶのどの深いところから音が出る。</p> <p>big bag など、gお音が浅いとビック、バックに聞こえるので、しっかりとどを動かす。</p>
<p>p</p> <p>[p]</p>		<p>くちびるをくっつけて、息を短く吹き出す音。くちびるに力が入りすぎていると、プヤパの音になるので、あまり唇に力をいれすぎないようにする。唇を巻き込み過ぎないように注意。</p> <p>くちびるをくっつけるときも、力を入れすぎて唇の形がゆがんでしまう人がいるので、その場合は力をぬいて、自然に唇を閉じた状態を意識させる。パヤプというシュワサウンドが入った音になるとブレンディング</p>

		<p>の際に変な音になってしまうので、注意。</p> <p>もしどうしても pin がプインやパインになってしまう子は、短母音とセットにして練習するとよい。</p>
b		pの有声音。口の形や気を付けるべきことはpと同じ。バやブに寄りすぎないように注意。
[b]		
m		くちびるをくっつけてンー。くちびるを離れた瞬間にシュワサウンドが入ってムやマになるので注意。
[m]		くちびるをくっつけたまま、鼻から息が抜けるのを感じつつンー。唇は最後まで離さない。
n		口を軽く開け、形はイの形。舌先を上の前歯の裏にくっつけてンー。舌先を歯の裏から離れた瞬間にシュワサウンドが入ってヌやナになるので注意。
[n]		舌先をくっつけたまま、鼻から息が抜けるのを感じつつンー。舌先は最後まで離さない。
ng	n...pink	日本人のほとんどがングとグを入れて覚えているので、ングとなっている生徒さんがいたら要注意。
[ŋ]		ngの音を知るために、少し大きめに体感させる。
		口を大きくあけてンーという。舌先が下の歯の裏あたりにあり、下の奥でのどの奥をふさぐ感じを意識しながらンーと言い、息が鼻から抜けるのを感じる。

		<p>実際には口は大きくあけないので、音の感覚がわかったら、口は自然な感じでnと同じくらい開ける。</p> <p>ng の音素自体にはグの音は入らないが、後ろに母音があると、gの音が出現する。mもnも同様に、後ろの母音を発するときそれぞれの音の特徴が出現する。</p>
h [h]		<p>息を軽く吐くだけの音。特定の口の形はなく、後ろに続く母音の口の形に連動する。</p> <p>h を音素で学習するときには、ハツとシュワサウンドが入ることが多いので、ハにならないように注意。</p> <p>どうしてもハになってしまう場合は、短母音や長母音とセットで練習し、パターンで覚える。</p>
l [l]		<p>Light L 舌先を歯で軽く挟みウーという。舌を歯から離れた瞬間に母音(シュワサウンド)が入ってしまうので、舌を挟んだままウーと言い続ける。ルやラにならないように気を付ける。</p> <p>Dark L 単語の間や単語の最後にくるL。milk、puple など。舌先を上の前歯の上に軽くつける。Light L ほど強く発声しない。</p>
r [r]		<p>口の形はイの形。舌を奥にひっこめ、口のなかでどこにも舌先がくっつかないようにしてウーという。うまく出せない人は唇をとがらせてもよい。</p> <p>舌先を軽く挟んでlの音を出しながら、舌先をひっこめてrの音を出す</p>

		<p>と、lとrの違いが明確にわかる。</p> <p>ついでに日本語のラリルレロを発音してもらおうと、lでもrでもないことがわかる。</p> <p>lの音でラリルレロ、rの音でラリルレロ、日本語のラリルレロ、それぞれ言い比べてみると差が分かりやすい。</p> <p>聞き分けるのはなかなか難しいので、まずは口元をみて、視覚的にも聞き分けるとよい。</p>
f [f]	<p>ph…photo</p> <p>gh…tough</p>	<p>上の前歯を下唇の濡れていない境目辺りに軽く触れさせて、歯の間から息を吐く。下唇に少し力を入れるときれいな音が出やすい。</p> <p>フッフツと音を切らずに、出来るだけ伸ばす。</p>
v [v]		<p>fの有声音。上の前歯を下唇に軽く触れさせて、歯の間から息を吐く。fよりもさらに息を吐く量が多い。</p> <p>息の量が少ないと、唇への振動が弱く、いつのまにか母音だけがウーと残るようになってしまう。唇をじりじりさせる感覚を3秒間安定して維持できるように、腹式呼吸で練習する。</p>
sh [ʃ]		<p>唇をとがらせ、上下の歯を近づけ、歯の間からシーっとかすれたような音を出す。</p> <p>口をまるめるのがポイント。息の量が足りなかったり、口がまるまっていなるとシの音になる。</p> <p>舌尖は下の前歯の裏あたりに。</p>

<p>(zh) [ʒ]</p>	<p>s...tre<u>asure</u></p>	<p>shの有声音。唇に力をいれてちょっととがらせる感じで口を丸め、ジュという。 舌先は下の前歯の裏あたりに。</p>
<p>ch [tʃ]</p>		<p>shの口の形(唇をとがらせるかんじで丸めて歯の隙間からシィと息を出しかすれた感じの音を出す)、 舌先はtの位置から、舌を話すときにツチという。日本語のチよりもかすれた感じの音になる。</p>
<p>j [dʒ]</p>	<p>g (Soft G) ... gの後ろにi, e, y が来た場合は [dʒ] の音になる orange</p>	<p>唇を尖らせる感じで丸めて、舌先を上の前歯の裏あたりにあてた状態から、舌を離してヂという。 zhとjの違いは舌の位置で確認する</p>
<p>th [θ]</p>		<p>舌先を軽く歯で挟み、歯の隙間から息を吐く音。本によっては、下を派の隙間から抜く時の音としているものもあるが、苦手な日本人が多いので、まずは息をしっかりと吐かせる。 日本語にはない音と口の形なので、しっかりと舌を見せながら発音するとよい。実際はそこまで極端にださない旨も伝える。 日本語のスになりがちな音なので、mouseとmouthなどで音の違いを確認する。</p>

<p>th [ð]</p>		<p>舌先を軽く歯で挟み、歯の隙間から息を吐きながら震わせる音。</p> <p>日本語に比べてかなり息を吐かないと震えが安定しないので、3秒間同じ息の量で音を安定させられるように練習する。</p> <p>this が dis、that が zat になっている日本人がほとんどなので、しっかりと舌を挟んで発音する練習をする。</p>
<p>y [j]</p>		<p>口をしっかりとイの形に横にあけ、舌先を下の歯の裏に当て、のどの奥から力強くギのような音を出す感じの音。</p> <p>子音単体で発音することはなく、後ろに必ず母音がくるので、子音だけの音を出すのが難しい。</p> <p>練習は短母音とセットでするとよい。</p> <p>yes や yeah、日本語でもイエ～イというときの最初のイのように単語の一部として紹介すると感覚的にわかりやすい。</p>
<p>w [w]</p>	<p>wh…<u>what</u></p>	<p>まずは声をださずにフーっと息を吐く。ティッシュを使って視覚化するとわかりやすい。次に日本語の発音でウーと言い、ティッシュが上にあがらない(息が出ていない)ことを確認する。そして「ウー」といいながらティッシュが上にあがるくらい息を吐きましょう、と促す。これがなかなかできない人が多い。息を吐きながらウーと言えようになったら、息を短く切ってウツと発音する。ティッシュの前で発音した場合、ティッシュが上にふわっとなるように。</p> <p>日本語では w の音はワしかないなので、ロがゆるみがちになるため、しっかりとくちをすばませた状態を維持してウツと言えているか確認す</p>

		<p>る。言えていない場合は、指で輪っかを作り、唇をはめてウツという練習をする。</p>
qu [kw]		<p>kとwがくっついた音なので、口の形はwの形で終わる。クワツとワの形になる(口がゆるむ)人が多いので、ゆるめずに最後まですばませた状態を維持する。あえてカタカナで書くならば、クワではなくクウツとなる。</p>
x [ks]		<p>kとsがくっついた音。両方とも口はイの形なので、口の幅はかわらない。カタカナのクモスも口がまるくなるので、そうならないように注意。</p>

※テキスト及び講座内容の転載、複写、再配布を禁じます。レッスン等で使用したい場合はご相談ください。

音素分解

アルファベット

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
ai	b/ee	s/ee	d/ee	ee	e/f	j/ee	ai/ch	ie	j/ai	k/ai	e/l	e/m

n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z
e/n	oa	p/ee	k/ue	ar	e/s	t/ee	ue	v/ee	d/u/b /l/ue	e/x	w/ie	z/ee

曜日

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday
s/u/n/d/ai	m/u/n/d/ai	t/ue/z/d/ai	w/e/n/z/d/ai
Thursday	Friday	Saturday	
th/er/z/d/ai	f/r/ie/d/ai	s/a/t/er/d/ai	

色

red	orange	yellow	green	blue
r/e/d	au/r/i/n/j	y/e/l/oa	g/r/ee/n	b/l/ue
purple	pink	brown	black	white
p/er/p/l	p/i/ng/k	b/r/ou/n	b/l/a/k	w/ie/t

数字

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
w/u/n	t/oo	th/r/ee	f/or	f/ie/v	s/i/x	s/e/v/n	ai/t	n/ie/n	t/e/n
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
i/l/e/v /n	t/w/e/l /v	th/er/t /ee/n	f/or/t/ ee/n	f/i/f/t/ ee/n	s/i/x/t /ee/n	s/e/v/n /t/ee/n	ai/t/ee /n	n/ie/n/ t/ee/n	t/w/e/ n/t/ee